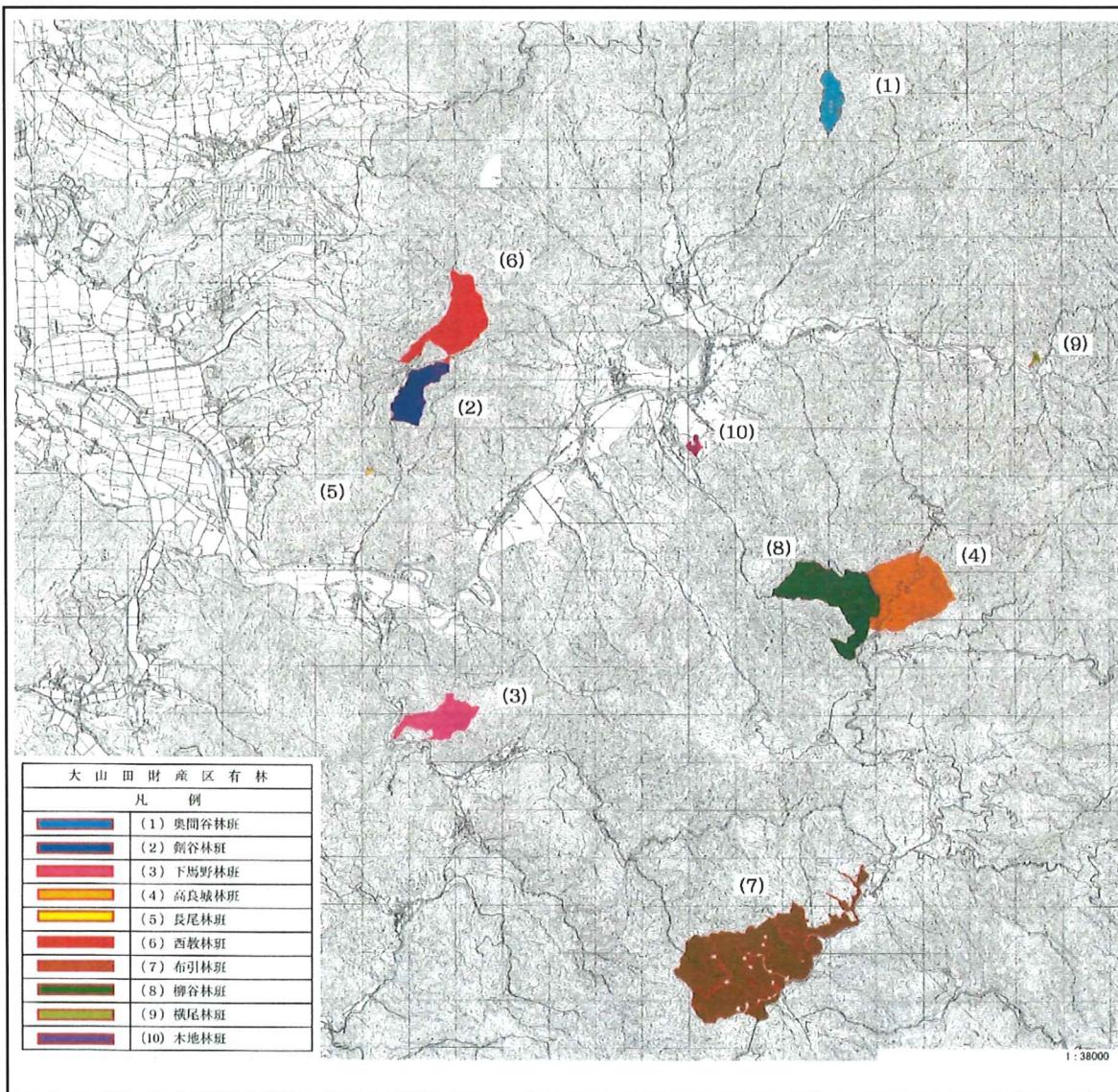


伊賀市大山田財産区有林の現況

区分	面積 (ha)
(1) 奥間谷林班	(実測) 11.99
(2) 剣谷林班	(実測) 19.17
(3) 下馬野林班	(実測) 20.34
(4) 高良城林班	(森林簿) 47.15
(5) 長尾林班	(森林簿) 0.50
(6) 西教林班	(森林簿) 33.94
(7) 布引林班	(実測) 124.20
(8) 柳谷林班	(実測) 48.62
(9) 横尾林班	(実測) 0.60
(10) 木地林班	(実測) 1.77
合計	308.28



伊賀市大山田財産区有林 長期森林整備計画 【概要版】

大山田財産区有林は、平成16年11月の伊賀市合併時に財産区を設置し、財産区が管理することになった旧大山田村有林である。総面積は約300haであり、およそ

7割が人工林となっている。昭和の大造林期に旧村民によって植林された広大な人工林は、旧大山田村有林として長らく整備してきたことから、当地に対する畏敬や愛着の深い財産区が管理を行っている。

木材価格の低迷を主要因とする林業不況のさなかにあって、財産区有林は、保安林整備や森林組合の集約化施業、森林研究・整備機構水源林造成事業などの事業を有効的に活用し、森林の適正な管理を実現してきた。

今後、世代交代がすすんでも、持続的に森林整備がおこなわれるために長期森林整備計画をここに策定し、目指す森林の姿を明確にし、次代に継承する。

令和2年3月策定

伊賀市大山田財産区

○長期の基本方針

(1) 森林の多面的機能を高度に發揮しうる森林づくり

森林の多面的機能について、国民の認識が高まり、森林は従来の木材生産だけを目的とした機能だけでなく、水土保全、土砂流失防止、レクリエーションなどの多様な公益的機能が求められるようになった。

その時代背景に応じて、従来の木材生産のみに固執するのではなく、多様な森林の機能が発揮され、地域発展に寄与出来るような開かれた森林づくりを目指していかなければならぬ。

(2) 目標とする森林の姿とそれに向けた森林施業及び保護

- ・人工林（スギ・ヒノキ）は大径材の生産を目標とし、①主伐の時期を200年生以上として循環する生産林と、②生産効率や獣害を考慮し、間伐を繰り返し、非皆伐による針広混交林化を目指す森林のいずれかの手法により整備を進める。
 - ・広葉樹に関してはレクリエーションとして用いることが容易であることから、それを目的とした利用法に取り組む。
 - ・材価低迷の時代、今後より一層造林・伐採搬出コスト削減を求められることは必至である。高性能林業機械をより有効に活用する搬出の研究、努力に心掛け、またその普及にも協力する。
 - ・森林の価値は従来の木材生産のみだけではなくなってきている。CO₂吸収源、水土保全など新しい森林の価値を鑑み、森林の経済的効果を追求する。

○整備方針

(1) 定義

戦後復興の木材需要の高まりにより、国策として造林が進められ、広大な人工林がつくられたが、高度経済成長に森林の生育が間に合わず、外材が自由化され木材価格が低下したことが、昨今の林業の衰退を招いている。奥山まで広がった人工林のほとんどが当初予定された収穫期を過ぎても未利用なままとなっている。

この未利用資源の源は、戦後復興のさなかに我々の先祖、先輩が汗水をたらして植林した労力であることを忘れてはならない。これらを踏まえ、森林整備とは、「間伐と間伐材の最大限の利用」と定義する。

(2) 主旨

- ・すべての林班において、継続的に間伐を実施していく。事業の採算性を考慮し、搬出間伐を優先的に導入していく。
 - ・整備を進めた人工林は、搬出により採算性のある森林とそうでない森林に分けられる。前者は、主伐から植林、保育し生産林として循環していく森林とし、後者は間伐・利用を繰り返し、針広混交林となって、最終的には天然林の位置付けとなる。

(3) 間伐

間伐とは、樹冠疎密度が10分の8以上の森林（隣り合わせた樹木の葉が互いに接して葉が林地を覆った状態の森林）において、主に目的樹種の一部を伐採することを言い、材積に係る伐採率が35%以内であり、且つ伐採年度の翌年度の初日から起算して、概ね5年後において樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実であると認められる範囲内で行うもの。

森林の立木の生育の促進ならびに林分の健全化及び利用価値の向上を図るため、概ね10年に一度、大径木に至る経緯では概ね15年に一度の間伐を実施するものとする。

間伐効果を長期間発揮させ、育林コストの縮減等を図る観点から、気象被害等に十分注意した上で間伐率を30%以上にすることが望ましい。

(4) 作業路網

作業路網の開設については、傾斜等の自然条件、事業量のまとめ等の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮する。

木材の搬出を伴う間伐の実施や多様な森林への誘導等に必要な森林施業を効果的かつ効率的に実施するため、林道及び森林作業道の開設は不可欠であり、積極的に取り組んでいかなければならない。

○整備年表

施業履歷

施業計画

間伐：間伐 搬出：搬出間伐 枝打：枝打ち